

平成22年度事業報告

【公益事業1】

— 犯罪被害者等の要望により行う各種支援事業 —

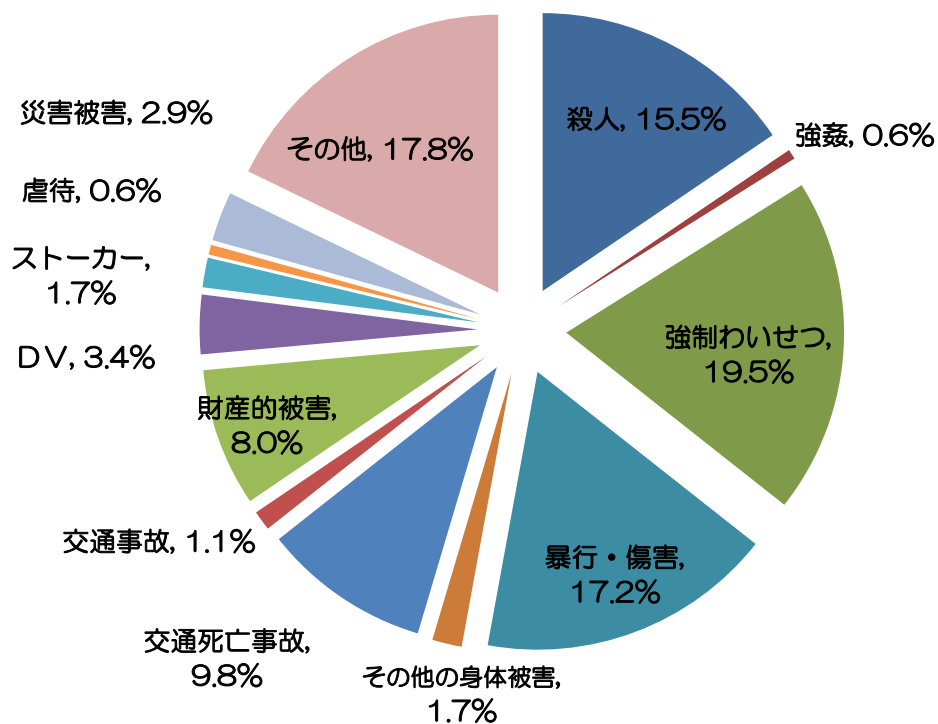
事業費：4,285 千円（人件費含む）

殺人事件や交通死亡事故等のご遺族、傷害や性犯罪等の被害者に対し、電話や面接による相談活動を行い、情報提供、裁判同行や関係機関への付き添い等の直接的支援を行いました。

<相談受案件数>

年度	電話相談	面接相談	直接的支援	計
22	105	23	26	154
21	93	13	9	115

<相談事案>



○その他

「犯罪被害者等早期援助団体」指定に向けた支援関連事業の実施

(1) 電話相談時間の延長

(旧) 電話相談時間 月曜日～金曜日 13:00～16:00

(新) // 月曜日～金曜日 10:00～16:00

木曜日は 18:00～21:00 も

(2) 支援機関との連携（テーマ:「顔の見える関係構築」）

・各支援機関と情報交換会の開催

和歌山地方検察、和歌山保護観察所、和歌山弁護士会、県内 14 警察署
（署長及び犯罪被害者支援関係署員）

(3) 「犯罪被害者等早期援助団体」指定に向け貸与・供与物品（防犯ブザー・携帯電話・衣服等）の購入

(4) 自主勉強会の開催

・事例検討会の開催

・22年5月から紀の国被害者支援センター独自の電話相談、面接相談、直接的支援各マニュアルの策定（継続策定中）

・犯罪被害者等給付金申請補助業務勉強会の開催

(5) 和歌山犯罪被害者自助グループ「なごみの和」の活動を支援

・全国刑務所等（120箇所）へタイトル「あの笑顔と生きる」の手記及びCD、ポスター、「なごみの和」の歩みを掲載した新聞スクラップの発送を和歌山保護観察所と連携して支援

・平成22年度、「命の授業」「ボランティア講座」「広島少年院」へ講師を派遣

【 公 益 事 業 2 】

一 犯罪被害者支援活動に従事する支援員の養成

及び技術向上のための研修事業 一

事業費：3,119千円（人件費含む）

被害者支援活動に従事する新たな支援員を養成するための講座の開催や、支援員に対しての更なる技術向上のための研修、県外研修への派遣等を行いました。

<ボランティア講座・ボランティア養成講座>



*ボランティア講座・ボランティア養成講座は、犯罪被害者支援の入門編として、年1回のペースで開催しています。

講座名	参加人数	開催日数	講座時間数	備考
ボランティア講座	20名	4日間	12時間	9期生
ボランティア養成講座（フォローアップ研修含む）	14名	6日間	24時間	
(講師陣) 臨床心理士・警察・弁護士・被害者遺族・検察・大阪アドボカシー ・社会福祉士・精神科医・紀の国被害者支援センター（事務局長・支援員）				
計	34名	10日間	36時間	

<犯罪被害者直接支援員養成・継続研修>



被害者の方々に対して、電話・面接相談。直接的支援を行うことができる「犯罪被害者直接支援員」を目指し、直接支援員養成研修を開催しました。22年度は、10名が「犯罪被害者直接支援員（補助員）」として認定されました。また、直接支援員に対して、更なる支援技術の向上を目指して継続研修も開催しました。

(支援員の支援力の向上事業)

研修名	参加人数	開催日数	講座時間数	備考
直接支援員養成研修	12名	10日間	50時間	8期生
直接支援員継続研修	15名	6日間	13時間	1～7期生
(講師陣) 臨床心理士・社会福祉士・警察・精神科医・行政(県) ・紀の国被害者支援センター(支援事業局長・支援員)				
計	27名	16日間	63時間	

<県外研修>

近畿ブロック研修/前・後期(兵庫県)、秋期全国研修及びコーディネーター養成研修(東京都)に参加し、支援技術の向上を図りました。

【公益事業3】

- 犯罪被害者支援の意義・必要性、被害者等の置かれている状況を理解していただくための広報・啓発事業 —

事業費：7,012千円(人件費含む)

1. 「国民の集い和歌山大会」(11月25日)へ参加
犯罪被害者週間に内閣府主催の「国民のつどい和歌山大会」を誘致し、県・警察と協力して当日の準備、受付、ブースの設置、講師・支援員・シンポジウム聴講生の派遣等で参画しました。
2. 「人権フェスタ」への参加
2月11日(祝)和歌山市主催の「人権フェスタ」(参加者約500名)

に参加し、ブース展示・リーフレット・グッズ等の配布を行いました。



3. 「命の授業—命の大切さを学ぶ—」の開催（5回）

<命の授業>



平成 18 年度からの継続事業で本年度も、命の大切さを学んでいただくため、ご遺族である市原千代子さんと、松本恵三子さんに講演をお願いし、「命の授業」を開催。延べ 2,146 名の生徒さんが聴講されました。

実施校	実施日	聴講生数	講師（遺族）	配布物
耐久高校	11/18	259 人	市原氏	ワークブック （内閣府発行）
信愛女子短大	12/1	330 人	松本氏	
吉備中学校	12/9	565 人	市原氏	
箕島中学校	12/10	442 人	//	
和歌山高校	3/14	550 人	//	
計	5 日	2,146 人		

4. 新規事業「出前講座」の開催（4回）

<出前講座>



「地域で取り組む被害者支援」をテーマに、人権委員、民生委員、自治会役員、市町村職員等を対象に、和歌山市、岩出市、田辺市、御坊市の県内4か所で「出前講座」を開催しました。

実施場所	実施日	参加人数	講師
岩出市	8/26	45人	臨床心理士及び支援員
和歌山市	9/17	35人	
御坊市	12/17	50人	
田辺市	1/18	42人	
計	4日	172人	

(冊子の制作)

本年度、紀の国被害者支援センターでは初めて、啓発冊子「こころの健康を取り戻すためー交通事故が与えるこころの傷ー」を発行しました。この冊子は、交通事故の被害者・被害者の遺族の方々によくみられる「こころの反応」・「こころの状態」を理解することで、自分の気持ちを整理し、こころの健康を取り戻す機会としてもらうことを目的に制作し、各支援機関をはじめ交通事故等の関係機関に配布しました。



(1,000部発行)

5. 街頭啓発活動

<街 頭 啓 発>



22年度は、延べ8日間9市においてリーフレット等の配布を
県・警察・地元市町村と共同で実施しました。

実施日	参加人数	実施場所	配布物
6/14	28名	和歌山市	リーフレット・絆創膏 その他被害者支援資料
6/15	31名	紀の川市・橋本市	
6/16	30名	田辺市・御坊市	
6/18	19名	岩出市	
6/21	30名	有田市・海南市	
8/27	—	和歌山市	
9/14	12名	新宮市	
11/17	25名	和歌山市(2ヶ所)	
計	175名(延参加者数)		

6. 全国一斉募金活動

実施日：平成23年1月23日(日) 13:00~15:00

実施場所：JR和歌山駅前広場

参加者：理事長以下役職員12名・和歌山児童合唱団員10名
及びその親10名) 総勢32名

募金額：41,818円 (21年度 15,215円)

*この募金は、全国被害者支援ネットワークが国に働きかけ、
犯罪被害者への経済的支援及び民間被害者支援団体への財
政的援助を行うための基金「全国被害者支援基金(仮称)」
の資金源の一部を確保するため、全国一斉に行う募金活動
である。



7. HPの充実と早期援助団体指定後の「情報管理」に向けた取り組み (HP)

公益社団法人のスタート（平成22年4月1日）に伴い、情報公開の
関係でHPを全面見直し、新着情報を発信しました。

(情報管理)

「犯罪被害者等早期援助団体」の指定に向け、情報管理規程に定めた特定
情報の管理・保護について、特に重要な警察提供情報の取り扱いについ
て、専門家の指導を受けコンピューター不正防止等の諸整備を行いまし
た。

8. 多様な広報媒体の利用

▼広報ツールの制作

事業概要（1,800部）・リーフレット（12,500部）
ノベルティー絆創膏（10,000ケ）
ポスター（300枚）・広報誌（1,000部）の発行



▼「犯罪被害者支援チャリティー第1回和歌山国際児 童合唱祭」実行委員会へ参画。チケット等の販売 で協力しました。

*入場料の収益金「150万円」をご寄附いただき
ました。



▼各種団体から依頼を受けセンターの活動内容を報告

ライオンズクラブ/ロータリークラブ/警察学校/市町村犯罪被害者支援
担当者会議/県被害者支援連絡協議会研修会/県交通安全団体総会 等

▼各種広報誌等への掲載依頼

県民の友/市町村広報誌/交番だより/赤い羽根情報誌/各新聞社 等



▼WBS和歌山放送でCM放送

- ・放送期間：犯罪被害者週間（H22.11.25～12.1）
- ・放送回数：1日8回（CM1回20秒）
- ・放送内容1例：

紀の国被害者支援センターは、電話や面接相談、必要に応じて裁判、病院等への付き添い支援を行っています。
お問い合わせは、073-427-1000番、427-1000番まで。
公益社団法人紀の国被害者支援センターです。

▼県内路線バス中吊りポスターの掲示

バス会社	車両数	掲示期間
和歌山バス・那賀バス	250台	H22. 12. 1 ～ H23. 1. 31
南海りんかんバス		
大十バス		
有田鉄道		
御坊南海バス		
龍神自動車		
明光バス		
熊野交通		
9社		



▼ JR和歌山駅前電光ニュースで放映

- 放送期間：H22.11.26～H23.2.15
- 放送回数：1日14回（1時間1回^レ-入）
- 放送内容1例：

ひとりで悩まないで！
 被害等に遭われたあなたを支援します。
 まずはお電話を。073-427-1000
 紀の国被害者支援センター



9. その他

執務環境整備

21年度に引き続き、社会福祉法人和遊協社会福祉事業協力会から助成いただき支援関連備品等を購入しました。

22年度
ノートパソコン
一眼レフカメラ
FAX兼用電話機
40万円

東日本大震災募金活動の報告

○募金活動（I）

3月12日全国被害者支援ネットワークから依頼があり、被災した

「岩手・宮城・福島・茨城」各センターに対し、全国の被害者支援に取り組む仲間と一緒に募金活動を展開し、理事長はじめ役職員のご協力と児童女性会館利用者の皆様方のご協力で下記のと通りの「義援金」を送ることができました。

記

1. 募集期間 平成 23 年 3 月 25 日～4 月 16 日

2. 義援金金額 44,714 円

*「義援金」取りまとめ先のネットワークへ振込済

○募金活動（Ⅱ）

引き続き、日本財団が被災地での復興支援のために設立した「東日本大地震支援基金」に協力することにしました。児童女性会館の利用者にも呼びかけ、被災地での復興支援や親を失った子供たちへの支援に協力します。

社員総会・理事会

○社員総会

第 1 回定時社員総会 平成 22 年 5 月 27 日 児童女性会館

第 2 回臨時社員総会 平成 23 年 3 月 25 日 児童女性会館

○理事会

第 1 回理事会 平成 22 年 5 月 27 日 児童女性会館

第 2 回理事会 平成 22 年 10 月 8 日 児童女性会館

第 3 回理事会 平成 23 年 3 月 25 日 児童女性会館

以上報告します。